

2. 学部授業科目

| | | | |
|-----------------|--|-------|--------|
| 授業科目名 (英文表記) | 西ヨーロッパの文学と社会 (Literature and Society in Western Europe) | | |
| 単位数 | 2 (学部生のみ) | 授業形態 | 講義 |
| 担当教員 | 小栗栖 等、千田 まや | | |
| 開 講 | 岸和田サテライト | 区 分 | 学部開放科目 |
| 実施日・時間 | 第1回 10月4日(土) 13:00~17:00 | (小栗栖) | |
| | 第2回 10月11日(土) 13:00~17:00 | (小栗栖) | |
| | 第3回 10月18日(土) 13:00~17:00 | (小栗栖) | |
| | 第4回 11月1日(土) 13:00~17:00 | (千田) | |
| | 第5回 11月8日(土) 13:00~17:00 | (千田) | |
| | 第6回 11月15日(土) 13:00~17:00 | (千田) | |

【授業のねらい・概要】

小栗栖は中世フランス文学を、千田はトーマス・マンを中心に20世紀ドイツ文学を扱います。一見すると、無関係に見えるこの二つの分野は、西ヨーロッパの歴史の流れに身をおいて見れば、実は、連続性の中にあり、数多くのテーマを共有しています。たとえば、トーマス・マンに亡命を強いたナチス・ドイツは、第三帝国と呼ばれていますが、第一の帝国に相当する神聖ローマ帝国はオットー1世が西ローマ皇帝として戴冠したことにより成立します。西ローマ帝国の復活は、実はカール大帝(フランス語ではシャルルマーニュ)の時代に起源があり、フランス文学の最初期に成立した「ロランの歌」はカール大帝の治世を背景としています。そうした連続性の一端を感じ取っていただくことが本授業のねらいです。

【授業計画】

- 第1回 西ヨーロッパの歴史：ガリア戦争から百年戦争まで
 第2回 (1) 中世フランス文学とは何か
 (2) 騎士の誕生：聖人伝と武勲詩
 第3回 (3) 恋愛の誕生：トリスタン伝説とクレティアン・ド・トロワ
 (4) 同上
 第4回 (5) 20世紀のドイツとマン家の人々 (i)：ドイツ帝国時代(世紀転換期から第一次大戦まで)
 (6) トーマス・マンの初期短編を読む。
 第5回 (7) 20世紀のドイツとマン家の人々 (ii)：ワイマール共和国(第三帝国から第二次世界大戦まで)
 (8) トーマス・マンの評論と書簡を読む
 第6回 トーマス・マンの長編小説の魅力と研究案内

※担当教員の公務出張等の都合により、担当日程と授業計画が変更される可能性があります。

【到達目標】

ヨーロッパ世界では、文学を語り得ることは重要な教養の一つであり続けています。とはいえ、歴史の流れのなかで、文学の魅力・文学研究という学問の意義を論じることができるようには、短期間ではなるものではありません。本授業は、受講者が、そのための能力と知識を身につけるきっかけとなることを目標とします。

【教科書】

授業中に適宜プリント等を配布します。

【参考書】

「フランス中世文学を学ぶ人のために」(原野昇編、世界思想社)ISBN-13：978-4790712299

【授業時間外学習】

各回到復習を2-3時間程度。授業で紹介する書籍や資料に目を通したり、関連事項を自主的に調査するのに要する時間は、一概には言えませんが、時間をかけるほどに、授業が面白くなることは指摘しておきます。

【履修上の注意・メッセージ】

中世フランス文学については、様々な作品のあらすじも紹介し、作品世界の魅力に触れていただきます。ドイツ文学の授業では、話し合いの時間を設けますので、積極的に発言してください。